芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十一年四月度 入選句（投稿総数千八百七十八句・一般投句数千三句）

特選

選者 度会 さち子

初蝶 や 風 の 一 瞬 き ら め け り

羽島郡笠松町 易田 喜芳子

この世に生をうけてまもない初蝶。飛ぶ様子も稚いが、やがて風を知り風に乗る白蝶。その蝶の舞う姿を風が一瞬きらめいたととらえた。初蝶をみつけたときの作者の喜びも感じられる。おだやかな春の一瞬を活写した、たくみな句である。

霾 ぐ も り 彩 色 土 器 の ひ と か け ら

大垣市

白井 秀子

黄砂により空がどんより黄色つぼくなることを、霾ぐもりというが、そんな日にみつけた彩色土器の一片。唐三彩の欠片か。黄砂も唐三彩も中国から来るもの、きたもの。青や赤色を残す土器の一片を、手にはるかな大陸との歴史などもよぎったのであろう。

校 庭 の 土 俵 鎮 も り 花 吹 雪

大垣市

清水 迪子

まだ春休みの、校庭の片隅にある土俵。あたりを祓うように鎮座している。そこへ桜が花吹雪となつて舞い上がり降る。あたかも清めの塩のようでもある。すぐに土俵では子どもたちの熱い肉体が輝く。その時をしずかに待っている校庭がみえてくる。

秀逸

桃 の 花 子 豚 は 乳 房 押 し 合 へ り

東京都世田谷区

関戸 信治

伊 吹 嶺 に 拳 を あ げ て 卒 業 す

大垣市

村田 通夫

ゆ る や か に 水 と 人 ゆ く 花 の 下

愛知県豊川市

影山 恒太

少 年 の 眼 差 し 一 途 葱 の 花

大垣市

中山 あや子

花 の 下 木 因 翁 の 影 踏 ま ず

大阪府門真市

川上 なみ子

川 音 の 激 し く な り ぬ 猫 柳

瑞穂市

伊藤 恵水

雛 納 め 今 日 よ り 淡 し 部 屋 と な り

大垣市

河合 愛子

船 頭 の 竿 川 底 に 春 を 突 く

大垣市

高木 歌佐

入選

教科書の隅に初恋花ミモザ
 脱ぎ捨てたスニーカーにも土筆の香
 涅槃西風仁王まばたきこらえけり
 空の青野に散らしたり犬ふぐり
 下萌や小石の多き海女の畑
 飯屋出づ父と息子の寒の月
 舟の水脈見ているだけの春うれひ
 結願の寺の石段猫の恋
 花は散る君の五体を使ひきり
 振鈴の走る伽藍や春浅し

神奈川県大和市 岩田 爾瑠
 大垣市 高橋 眞智子
 大垣市 安田 むっこ
 不破郡垂井町 吉野 君美
 東京都世田谷区 関戸 信治
 大垣市 田口 貞善
 愛知県稲沢市 後藤 幸子
 揖斐郡池田町 木塚 しょう
 岐阜市 伊藤 瑞実
 岐阜市 小湊 順子

入選

花に酔ひ花に溺れて句碑巡り
 春光や鳥の嘴潤みおり
 百千鳥入り乱れては神の森
 まん丸の土偶の肩も春愁ふ
 楔打つ白の年輪春まつり
 父と子の石投げ弾む春の川
 歛ひとつ洗って去りぬ春の水
 光り合ふ木曾三川や揚雲雀
 白き蝶白き伊吹に見失なう
 大垣の天守吹き抜く花の風
 てふてふと書いててくてくしたきかな

三重県四日市市 平野 透
 不破郡垂井町 富田 実郎
 大垣市 森川 きよ子
 大垣市 秋山 くに子
 大垣市 臼井 秀子
 大垣市 野原 佳代子
 大垣市 日比野 友子
 大垣市 神野 武彦
 大垣市 香田 末代
 愛知県稲沢市 後藤 興生
 大阪府堺市 椋本 望生

選者吟

春の虹まだ濡れてゐる鳥のこゑ

さち子